

第1回特別支援学校設立準備委員会(令和7年5月26日開催) 議事録

(1) 市立特別支援学校設置への期待

- ・ 小学校内に特別支援学校の機能を包み込んだような学校づくりができないか。取組みが広がることで、学校教育法の改正など、日本の学校教育を変えるきっかけになる。県とも連携し、特別支援教育の諸課題に取り組み、発信して欲しい。
- ・ 小学校と特別支援学校の児童が、朝会や給食、清掃など、日常的・継続的に学び合えるよう、教育課程の一部を共有するなど、学びを重ねていく取組みが重要
- ・ インクルーシブの理念を阻むのは人の意識。今後2年間で様々な人の意識をどれだけ変えられるかが鍵となる。特に教員の意識改革が進められるかは、学校設置の意義にもつながる。子どもたちとも、どんな学校にしたいかを一緒に考えてもらいたい。
- ・ 柔軟に学びの場を変えるため、就学判断や学びの場の見直しもスムーズにできることが重要
- ・ 学校を卒業した子どもたちが豊かに生活していけるためにも、商業施設の方など地域の人たちとも連携し、インクルーシブな共生社会への取組みを進めて欲しい。

(次頁へ続く)

第1回特別支援学校設立準備委員会(令和7年5月26日開催) 議事録

- ・子どもが日常を共に過ごし成長する中で、障がいの有無に関わらず、自身が持っている力を発揮できるようにして欲しい。障がいのない子が障がいのある子に優しくするという一方的なものではなく、それぞれが自分を大切にできる学校にしたい。
- ・市立特別支援学校ができることで、本来は特別支援学級に通う子どもを特別支援学校で受け入れることのないよう、子どもにとって適切な学びの場を判断することが必要

(2) 設置場所について

- ・教員同士の意識共有のため、小学校と特別支援学校の職員室は同室にするべき。
- ・オープンなスペース、個別活動に対応できるスペースも必要。将来的な受け入れを研究する重度重複障がい等、障がいの程度に応じた設備や柔軟に対応できる設計などを想定する必要がある。
- ・スクールバスを運行する場合の乗降場所や保護者の送迎の動線も考慮する必要がある。
- ・障がいを持つ子の保護者のキャリアアップの視点から、放課後等デイサービスなどの福祉分野と連携し、基礎自治体だからこそできる市民生活の向上につながるようにしたい。
- ・旭町中と女鳥羽中は分校を抱えており、この2校の支援学校長兼務は、学校や校長への負担が大きい。